

左近中だより

横浜市立左近山中学校

校長 福田 有志

同校 学校だより担当

学校教育目標

～ 優しさ 思いやりを柱に ～

未来を創る力の育成

- ・学力の向上 (知)
- ・健やかな心と体 (徳・体)
- ・社会の一員としての自覚と責任 (公・開)

今後への期待

学校長 福田 有志

横浜市には、12校の特別支援学校があります。特別支援学校とは、視覚障害や聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱などの児童・生徒に対し特別支援教育を行う学校です。

私が昨年度まで勤務していた中村特別支援学校は、肢体不自由の児童・生徒を対象とした特別支援学校です。中村小学校に併設されて、ドア一枚で双方の児童・生徒が自由に行き来できます。また、日々様々な交流を行っている全国的にも珍しく、貴重な形態の学校です。

この左近山地区では、左近山第二小学校の跡地に平成31年度より特別支援学校の開校が予定されています。いつか、同じ左近山地区の学校として本校と交流する日が訪れるかもしれません。

さて、6月22日から24日に3年生の修学旅行に行ってきました。実行委員そしてそれぞれの係さんがしっかりと役割を果たしていました。3日間の行程がほぼ予定通りに進められたのは本当に立派でした。体育祭に続いて、さすが3年生という姿勢が見られたことをうれしく感じました。

今後、3年生は各自の役割を果たすと同時に一人ひとりの進路に向けて、学習に大いに励んでいきましょう。また、1・2年生も上級生に続いて積極的に様々な活動に取り組んでいくことを期待します。

協力できた満足感がつくる笑顔あふれた校外学習

第2学年主任 山下 淳

鎌倉校外学習実行委員のみなさんは、校外学習の成功のために、たくさんの時間をかけて準備に当たってくれました。ありがとう。班長のみなさんは、道中、トラブルを防ぐために気を遣い、大変疲れたことでしょう。お疲れ様。そして、すべての班が、事故を回避するために多くの場面で互いに注意し合い、協力してくれたことでしょう。疲れのため、全員が笑顔で帰着、とはいかなかったようですが、みんなで協力できたという満足感が、東戸塚でのみなさんの顔にあふれていました。

平成28年度の鎌倉校外学習は、次のめあてで行いました。

【鎌倉校外学習のゴール】

- 全員が、事故なく無事に「笑顔で帰ってくる」こと
 - 本物を見て、その「感想を持ち帰る」こと
 - ・ 笑顔で帰ってくるには事故やトラブルがあってははいけません。
 - ・ 笑顔で帰ってくるには協力できたという満足感が必要です。
- 互いに協力して事故を回避する。
計画通り行動してたくさん学習する。
さあ、鎌倉校外学習を成功させよう。



事故やトラブルなく、満足感とともに笑顔で帰ってくるというめあては達成できました。帰校後に、本物を見た感想と感動を事後学習の中で壁新聞の形でいねいにまとめています。文化祭の場で学習の成果をみなさんに見てもらうためです。文化祭の展示発表を、ぜひご期待ください。

【「鎌倉校外学習振り返り」より】

- いろいろなお寺に行って、それぞれの雰囲気味わえたのでよかった。
- 写真で見るよりとてもきれいで、行ってよかったなと思いました。
- 人と一緒に活動をする楽しさが分かった。人と一緒に活動をもっとしたい。
- もっと訪問先のことやマナー、見どころを事前に調べていけば、もっと楽しめたと思う。
- チェックポイントへは遅れないようにしようと思った。先生達を心配させないように。
- ルールを守ることが大切。自分勝手はだめだと分かった。
- 楽しむためには責任をしっかりと持つことが大切だと思った。もし適当に計画を立てて、さらに一人ひとりが役割を果たさなかったら、最悪な校外学習になったと思います。
- 班長がみんなを引っ張っていて、すごくかっこよかった。

平成 28 年度 第1学年 学年運営計画

【1学年運営目標と方策】

- 生徒一人ひとりが居場所を見つけ、安心して成長していけるように、教職員と保護者が協力しあいながら支援する関係を作りあげていく。
- 「よりよい学年の成長」を目指せるような集団作りの活動を、基本的な生活習慣・生活指導・学習・特活の面から支援していく。

学力向上

- ・「わかる喜び」「達成感」を目指して、授業展開を工夫し指導方法の情報交換を行う。
- ・一人ひとりの学習支援について「学びのひろばの活用」「通級の学習支援の方法を学ぶ」など、研鑽する。

健やかな心と体

- ・誰もが安心して学校生活を送れるように、生徒・保護者とコミュニケーションを取り信頼関係を作る。
- ・生徒が相談しやすいように、学年職員がチームとなって情報交換を密にする。

社会の一員としての自覚と責任

- ・一人ひとりが役割を担っていくことを自覚させると共に、その活動を適切に評価し支えていく。
 - ・基本的な生活習慣や、相手を認める「あいさつ」「相手を思いやる気持ちを言語化すること」を大切にす
- る。

平成 28 年度 第2学年 学年運営計画

【2学年運営目標と方策】

- 共感と信頼を基にした教育活動と生活指導を展開するために、生徒と保護者の言葉に親身に耳を傾ける。
- 一人ひとりの心情に寄り添った教育指導と生活指導を展開するために、生徒個々の抱える課題や悩みを、情報交換を密にすることによって共有する。
- 生徒個々の心に自己肯定感と自尊感情を育み、自らの夢と希望に向けて努力する態度を引き出すために、学習活動や学校生活において生徒一人ひとりが個性と能力を発揮する場をつくる。
- 健全な生徒集団を目指すために、積極的な生徒指導及び集団指導と、家庭や地域との連携を図る。

学力向上

- ・学習意欲を引き出すために、わかりやすい指導、わかりやすい指示に心がける。
- ・家庭学習の習慣化を図るために、日々の学習内容と家庭学習の課題を定期的に広報する。

健やかな心と体

- ・思いやりを感じる学年集団を目指すために、他者の気持ちを察した行動を評価し、強化する。
- ・日々の生活に安全、安心を感じる学年集団を目指すために、集団生活のマナーを丁寧に指導する。

社会の一員としての自覚と責任

- ・協力、協働による喜びを体感させるために、集団への貢献とメンバーシップの発揮を要求する。
- ・自分らしさを表現できる安心感と学年集団への所属意識を高めるために、暴力、暴言を排除する。

平成28年度 第3学年 学年運営計画

【3学年運営目標と方策】

- 一人ひとりの生徒の成長や環境を適切にとらえ、生徒理解を深めるための考察と情報の共有を適宜行う。
生徒の現状と将来について一定の共通理解を図り、良き成長方向への展望をもって教育活動を展開する。
- 義務教育最終学年として自らの進路開拓、進路先での活躍へ連結するための学力習得を目指す。授業での積極的な学習姿勢を支援し、家庭学習にて知識を定着させる習慣を身に着けさせる。将来に夢や希望を抱き、可能性を信じて根気よく努力を継続するように指導、支援を行う。
- 安定した学校生活の基盤づくりに努め、その上で魅力的な学級、学年運営を目指す。生徒の学校生活への意欲的な姿勢を評価して良き個性を育み、将来の発展につなげる。仲間との協同から責任感、自己肯定感、協調性、社会性を高め、他と連携して自らの力を発揮できる基盤を培う。
- 最上級生としての自覚をもち、目標に向かって自ら努力し、継続的に自己成長をはかれる生徒の育成をめざす。学校生活の様々な場面において求められる役割を的確に行い、頼もしいリーダーとして活躍し、生徒自らが達成感や自信を獲得できるよう支援する。やさしさや思いやりをもち、後輩の良き手本となる上級生となるように指導する。

学力向上

- ・魅力ある授業を目指し、一人ひとりの学習状況を理解しながら個々の目標達成に向けて支援する。家庭学習の量と質の確保を促し、効果的な学習方法を模索し、知識を確実に定着させられるように支援する。
- ・仲間と共に学び、気づきあい、助け合い、ともに高まっていける集団づくりを目指す。
- ・進路学習に真剣に臨ませ、情報や知識を確実に習得させる。自己を的確にとらえ、自ら最適な進路先を模索できるように支援する。本人、保護者への理解と連携を深め、共に歩み、将来に希望を持てる進路先の決定につなげる。

健やかな心と体

- ・お互いを思いやり、良き個性が発揮できる、あたたかみのある学年作りを目指す。やさしさや思いやりをもって、他者の理解を深め、協力し、助け合える個と集団の育成を目指す。
- ・衣（身だしなみ）、食（適切な量と質）、住（家庭環境）を大切にとらえさせ、安定した心と体を基盤に日々の生活を築けるように指導する。

社会の一員としての自覚と責任

- ・最上級生として左近山中学校の核を担い、自らの言動に責任を持って行動し、下級生の模範となるように指導、助言を行う。良き評価を与え、自己有用感を高め、自ら意欲的に成長できる生徒を育成する。
- ・一般社会、地域、学校のきまりやルールを遵守する社会性を育む。周囲の支援に気づき、感謝の気持ちをもって、自らの力を学校、地域や社会に発揮できる生徒の育成を目指す。

平成28年度 個別支援学級 学級経営計画

1. 学級教育目標と方策

子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、具体的な活動や体験を通して、社会生活に必要な知識、技能、態度および習慣を身に付けさせ、現在および将来の自立と社会参加の基礎を養う。

学力向上

- ・目、手、心、頭、体を使って考える生徒、行動する生徒を育て、生きる力をつけます。

健やかな心と体

- ・自分がされたらうれしいことを自分から他者にする生徒を育てます。

社会の一員としての自覚と責任

- ・学校のため社会のために自分を生かす生徒を育てます。

2. 重点目標

自分に自信を持って、頑張ろうとする生徒の育成を図ります。

- ①. 身体機能の向上と、健康で安全な生活及び効果的な行動の育成を図ります。
- ②. 働く喜びを身につけ、勤労を重んじる態度・能力を育成します。
- ③. 問題解決のために必要な持続力、意志力、判断力を養います。
- ④. 集団の中でルールを守り、感謝と思いやりのある心を育成します。
- ⑤. 自己実現のために自分を表現する方法や他者とのコミュニケーションの方法を学び、積極的に関わっていこうとする態度を育成します。
- ⑥. 将来の生活設計や支援などについて保護者と共に考え、生活・就労などについて目標を持ち、前向きに自己実現しようとする態度を育成します。

平成 28 年度 通級指導教室運営計画

【教室運営目標】

- ・学習、生活の両面にわたって学校生活への適応を図る指導や支援をする。
- ・将来の社会自立を目指した、長い見通しに立った指導や支援をする。
- ・自己評価や自己理解を明らかにして心理的な側面の指導や支援をする。

【教室の運営方策】

学力向上

- ・中学校生活を送りながら、社会生活やコミュニケーション上の課題を発見し、解決に向けた学習を積み重ねる。（知）
- ・通級生徒の在籍校、諸機関と連携を図りながら、多様な指導を展開する。（開）

健やかな心と体

- ・一人ひとりの状況に応じて、思いやりと互いに認め合う心を育てる。（徳）
- ・自分の状況を素直に受け入れ、安心して生活できるようにする。（体）

社会の一員としての自覚と責任

- ・生活力を高め、社会の一員としての意識を高める。（公）

お知らせ

1. 左近山中中学校区地区懇談会 7月15日（金）18：30～19：30

今年度も市沢団地集会所と左近山高集会所（第3集会所）の2カ所で地区懇談会を実施します。テーマは『スマホ・携帯の問題点』です。多くの地域、保護者の方々にご参加いただき、ともに課題を共有し、大切な子どもたちの健全育成のために懇談をさせていただきたいと思います。

2. 体育館大規模改修工事

今年度最大の工事として、夏休みから体育館の大規模改修工事が始まります。工期は来年2月の末までの予定です、詳細については次号学校だよりでお知らせいたします。工事期間中は色々とお不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

7月の主な予定

- 11日（月） 国際理解・人権講演会
- 12日（火） 個人面談 ～15日（金）まで
- 19日（火） 大掃除 教科相談
- 20日（水） 全校集会、学年集会
- 21日（木） 夏季休業開始
- 25日（月） 校内リーダートレセン
- 29日（金） まちとともに歩む学校懇談会